

奨学生募集要項（2025年度）

No. 443

直接応募（C区分）

奨学団体名 （奨学金名称）	帝人久村奨学生（博士課程） 【2027年度予約採用】		
2025 募集人数	全国で10名程度		
募集学年	2026年10月または2027年4月に博士（博士後期）課程に進学することが決定している、または見込まれている大学院生		
募集学部・研究科 研究分野等	医学・薬学・バイオ学系、理学系、工学系、情報学系等に在籍している者		
財団締切時期	2025年9月25日（木）		
給付	月額 100,000円	貸与	無
授業料相当額支給	無		
（採用時）一時金	無		
併給	併給可	年齢制限	無
就労制限	無	出身地制限	無
その他応募条件	・ 給付期間は、2027年4月から正規の課程修了月まで ・ 申請書は財団HPよりダウンロードすること ※選考合格後、博士課程に進学しない場合は給付対象外となる。		

募集要項

1. 応募資格

医学・薬学・バイオ学系、理学系、工学系、情報学系等に在籍している学生で次の条件に該当し、指導教員の推薦を受けた者。

●2026 年秋(9 月、10 月)または 2027 年 4 月に国内大学の博士課程に進学することが決定している、または見込まれている大学院生(外国人留学生も可)

※選考合格後、博士課程に進学されない場合は給付対象外となります。

*現在在学している大学から、他の大学院へ進学する場合は原則として現在の大学から応募してください。

*外国人留学生の場合は、留学予定先の国内大学から応募してください。

2. 採用人員

10名程度

3. 採用基準

本奨学金では、経済的困窮度よりも、成績・研究に対する熱意や取り組み内容を重視して選考します。

4. 選考方法

(1) 第1次選考
書類選考

(2) 第2次選考

第1次選考合格者に対して、次の系列毎の専門面接により選考します。

- 医学・薬学・バイオ学系(医学、薬学、生物、環境等)
- 理学系(化学、物理、材料等)
- 工学系(電気・電子工学、機械、建築等)
- 情報学系(情報システム、電子システム等)

(3) 最終選考

第2次選考合格者に対して、当会選考委員による面接を実施し、奨学生を決定します。

5. 選考スケジュール

博士課程進学予定者

選考方法	日程	場所
2次面接	10月下旬～11月上旬に実施	オンライン
最終面接	12月4日(木)に実施	帝人(株)東京本社内

※選考日時・場所等の詳細については、受験者宛に別途ご案内します。
※面接時の交通費は国内移動分のみ全額支給します。

6. 提出書類(応募書類は当会HPからダウンロード可)

- (1) 公益財団法人帝人奨学会帝人久村奨学生志願者調査(所定用紙、写真貼付): 志願者本人が作成するもの。
- (2) 公益財団法人帝人奨学会帝人久村奨学生推薦調査(所定用紙): 指導教員に作成いただくもの。
- (3) 学業成績証明書(直近のもの)
- (4) 現在の研究概要をA4判2～3枚に簡潔にまとめたもの1部(文字サイズは11ポイント以上、カラー不可)
- (5) 個人情報の取扱いに関する同意書(所定用紙): 志願者本人が自署したもの。
- (6) 在留資格認定証明書(在留カード等)
※外国人留学生のみ

7. 提出締切日

2025年9月25日(木) 必着

8. 提出方法

帝人奨学会事務局宛に

PDFデータにしてEメールにてお送りください。

送付先: kumura@teijin.co.jp

9. 最終合否の決定

2025 年 12 月下旬までに最終的な合否結果を大学宛に文書で連絡します。

志願者本人にはEメールでご連絡します。

10. 奨学金の取扱い概要

(1) 給付期間

正規の博士課程修了月までとします。

※在学中に海外留学する場合は、正規の博士課程修業期間を上限として給付を継続します。

(2) 奨学金給付額

給付額 100,000円/月(博士課程)

(3) 給付開始月

2027 年 4 月から開始

※2026 年秋(9 月、10 月)入学者も同様です。

(4) 給付方法

奨学生指定の金融機関の個人口座に偶数月初旬に給付額の2ヶ月分を振込みます。

(5) その他

ア. 他の奨学金との併給が可能です。

イ. 帝人グループへの入社等その他の付帯義務はありません。

ウ. HPに掲載されている先輩帝人奨学生からのメッセージやFAQもぜひご覧いただき、応募の参考としてください。

公益財団法人帝人奨学会概要



帝人(株)創業者
久村 清太氏
(1880-1951)

公益財団法人帝人奨学会は、1953年6月の帝人株式会社創立35周年を記念した「帝人奨学会久村奨学生制度」を端緒として発足しました。翌1954年、この制度の一層の発展を期すため、奨学金事業を主事業として、財団法人帝人奨学会を設立しました。その後2011年に内閣総理大臣の認可を得て「公益財団法人帝人奨学会」に改組し今日に至っております。

帝人奨学会の目的は、人造絹糸(レーヨン)の製造技術を独自に確立し、「日本化繊工業の父」と呼ばれた久村清太氏の功績を讃えて、独創的な研究開発の精神を継承発展させるとともに、国家・社会の発展と文化創造に貢献する「若き科学技術者を育成する」ことにあります。

創立以来この制度を貫く本質的な精神は変わっておりません。本制度は一企業のためではなく、国家社会の発展を担う人材育成を主眼としております。また、将来の科学技術を担う研究者を育成するために、経済的な条件等を問わず学業優秀であれば奨学金の給付を認めております。更に、本制度は発足以来、帝人株式会社への入社等の義務的拘束は一切設けておらず、公益財団法人の本質を堅持しております。

これまでに、ノーベル化学賞受賞者など1,700名以上の方が大学研究機関や民間企業で活躍されています。

1. 沿革

1953年(昭和28年)6月
帝人株式会社創立35周年事業として、育英制度を設立。
1954年(昭和29年)7月
文部大臣の許可を得て、財団法人帝人奨学会が発足。
2011年(平成23年)10月
内閣総理大臣の認定を受け、公益財団法人へ移行

2. 目的

科学技術者としての自己の使命を自覚し、国家・社会の発展と文化創造の担い手となる人材の育成を目的とする。

3. 帝人久村奨学金及び帝人久村奨学生命名の由来

日本で初めて化学繊維(レーヨン)の製造技術を確立し、その後の化繊工業の発展の礎を築いた、久村清太氏の功績を讃え、その偉業を永く後世に伝えるため、当会の奨学金を「久村奨学金」及び奨学生を「久村奨学生」と命名し、50周年を機に「帝人久村奨学生」、「帝人久村奨学金」と改めました。

4. 事業内容

技術系大学院生に対する帝人久村奨学金の給付。

5. 奨学生の実績

累計奨学生数：第1回(1953年)より第73回(2025年)までの帝人久村奨学生1,736名

6. 役員 <50音順>

理事長
梅谷 博之(帝人奨学会)

理事
伊藤 大雄(電気通信大学大学院教授)
(選考委員兼務)
浦野 泰照(東京大学大学院教授)
北川 敏明(九州大学大学院教授)
(選考委員兼務)

監事
嶋井 正典(帝人株式会社)
高原 淳(九州大学名誉教授)

評議員
岩澤 伸治(東京科学大学名誉教授)
金井 浩(東北大学名誉教授)
八島 栄次(国立清華大学特別教授)

選考委員
相田 卓三(東京大学卓越教授)
小比賀 聡(大阪大学大学院教授)
中野 貢之(帝人株式会社)
藤原 嗣郎(帝人株式会社)

(2025年6月現在)

『若者よ海外へ出よ!』

～ノーベル化学賞 受賞(2010年)故 根岸 英一 氏からのメッセージ～

1958年に私が帝人に入社したころ、当時の大屋晋三社長は「若者よ海外へ出ろ。10年に1ヶ国語ずつ学べば、30年で3ヶ国語が話せるようになる。そうすれば君たちも世界で通用するようになる」と仰っていました。私がこのような道を歩むことができた原点は、この大屋社長の言葉にあります。

私の専門である化学のコンペティション(競争)の場は世界であり、いまや我々のプレーグラウンドは世界です。また学ぶための師も世界単位で探し、世界の競争の中でトップになることを目指す時代です。そういう意味で、皆さんのような若者には、積極的に海外へ出て頂きたいと思います。

そして自らの「夢」を見つけたら真理を突き詰めるまで、とことんチャレンジしてください。今後の皆さんの大いなる活躍に期待しています。



故 根岸 英一氏
帝人久村奨学生第5回生(1957年)

<2013年11月ご寄稿>